



Web環境でも多彩な分析業務を実現した

多次元データ分析プログラム HITSENER5

ビジネスの現場で日々蓄積される多種多様なデータ。その膨大な情報資産をさまざまな観点から分析・検討し、企業経営に欠かせない「スピーディな意思決定」を行うためには、高速なレスポンスと直感的な操作を可能にする分析環境が必要です。そこでお勧めしたいのが日立の多次元データ分析プログラム HITSENER5。

HITSENER5は、親しみやすいインターフェースとシンプルなマウス操作に加え、高速な多次元分析を可能にするMDB (多次元データベース)と、既存データを蓄積しているRDB(リレーショナルデータベース)の両方にシームレスにアクセスする機能をサポート。日々の売上速報を利用した帳票イメージの集計から、実績データを多角的に分析して要因を導き出す高度な分析業務まで、多様なデータ活用業務をフロントエンドからノンプログラミングで分析することができます。またWeb環境でもクライアント/サーバ環境と同等の情報分析を実現する新機能も提供します(図1)。

多機能だけれど使いやすい

- HITSENER5の主な特長 -

ノンプログラミングだからだれでも簡単に使える

ドラッグ&ドロップで簡単設定

分析対象データ名を選択すると、分析項目の一覧を表示。そこでドラッグ&ドロップ操作をするだけで、分析項目を列/行/ページ軸へ簡単に割り当てることが可能です。この間、特別なプログラミングは一切必要ありません。分析対象データは表(階層表/明細表)またはグラフで表示できます。分析環境には、複数の表やグラフを同時に表示できるため、多角的な視点から分析が行えます。

使いやすいユーザーインターフェース

さまざまな高度な分析(ドリルアップ、ドリルダウン、スライス、ダイスなど)も、煩雑なデータ操作を繰り返すことなくマウス操作で可能なため、分析者の思考の流れをささげらず、自由に次々とデータ分析が試せます。

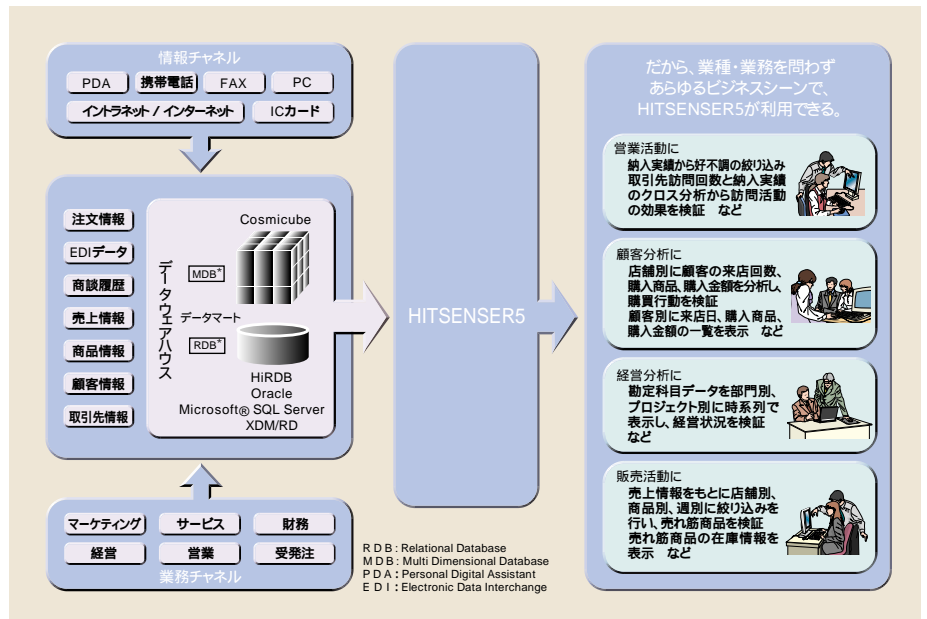


図1 高速なレスポンスと直感的な操作を可能にする、多次元データ分析プログラム HITSENER5

CosmicubeとRDBをダブルでサポート
HITSENER5は、膨大なデータを高速・的確に処理できるMDB CosmicubeとRDBの両方にフロントエンドからアクセス可

能な統合OLAP分析環境を提供します。対応するRDBは、HiRDB、Oracle、Microsoft SQL Server、XDM/RDです。これにより、MDB上の集計データからメインフレームを含

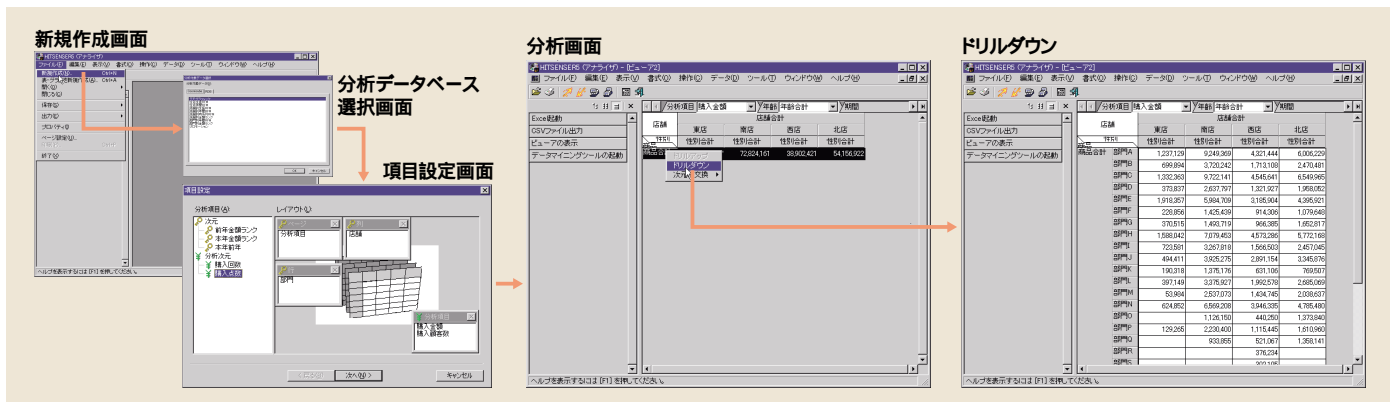


図2 CosmicubeとRDBをダブルでサポート

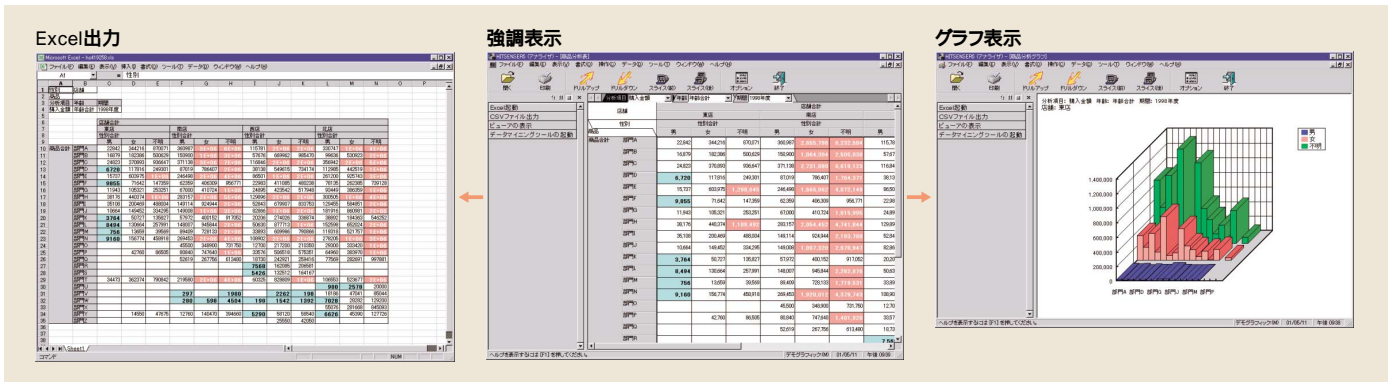


図3 多角的な分析を実現する多彩な機能

めたRDB上の詳細データへのシームレスなドリルスルー、多次元分析の元データであるRDB上のデータ参照などをマウスのクリックだけでフレキシブルに実現し、分析者の多彩なニーズに応えます(図2)

特異個所を容易に発見。スピーディな意思決定をサポート

多角的な分析を実現する多彩な機能

HITSENER5はデータベースの内容を、表またはグラフに表示します。表示形式は目的に応じて階層表、グラフ、明細表から選べます。

グラフでは28種類のグラフ種別を用意。棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、散布図、パレート図、レーダーチャートなど、目的に応じた表示形式を選択できるので、分析時に数値の新たな意味を発見しやすいだけでなく、プレゼンテーションの場面でも説得力のある表やグラフとして利用できます。

また、表(階層表)とグラフの相互変換も自由自在。これにより、分析項目を利用したクロス集計が可能となります。集計の種類は、合計/累計/構成比/平均や総合計/総平均をそろえており、分析項目別に昇順/降順も設定できます。

さらに、特異値のすばい発見を支援するための強調表示も設定できます。設定した内容は、ドリルダウンなどの操作を行っても有効で、同じ操作を繰り返す必要がありません。

Microsoft®Excelと連携可能

階層表や明細表をExcelファイルやCSVファイルとして出力することができます。CSVファイル出力により、他のソフトとの連携が可

能となり、抽出結果や分析結果をエンドユーザーが自由に加工できるようになります(図3)

分析ノウハウの共有化を実現

分析ノウハウの共有化

“コマンド”や“分析情報ファイル”といった分析手法を「ブックメニュー」として複数登録することができます。試行錯誤を経て作成した表やグラフを定型メニュー化することで、同じ結果を得るために、複数の人が同じ分析を繰り返す必要がなくなり、分析作業の簡略化と分析ノウハウの共有化を実現。個人のスキルに依存しない問題発見 - 原因追求プロセスを展開できます。

操作しやすい環境にカスタマイズできる

コマンド/メニュー/ツールバーのカスタマイズが可能です。表やグラフの表示、Microsoft® Excelなどのアプリケーション起

動コマンドをボタンに割り当てることができま。これにより、分析結果を見るだけのエンドユーザーに対して、操作を簡単にし、間違った操作を防止することができます(図4)

Web環境でもC/S環境と同等の機能を実現

全社規模の情報分析システム構築を支援

HITSENER5ではC/S版とWeb版を提供しています。従来のWeb版は、あらかじめ登録された分析手法に沿って分析を行う使い方でしたが、最新バージョンからはC/S版と同等の機能をサポート。Webブラウザ(Microsoft® Internet Explorer)上で、分析手法の作成や定型化も可能となり、場所を特定せず本格的な分析作業が行えます。

Web版ならではのコストパフォーマンスと運用性

HITSENER5 Web版は、導入しやす

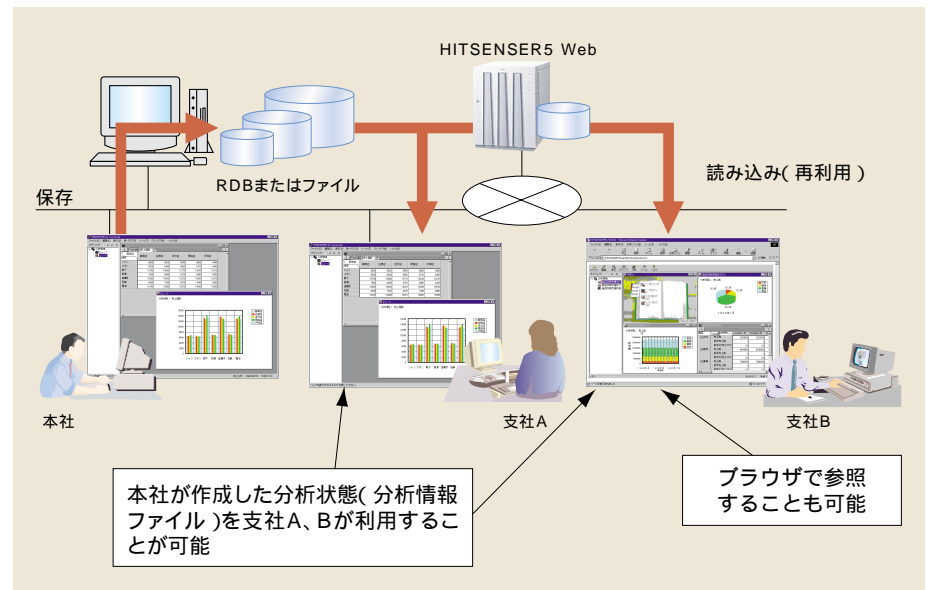


図4 分析状態の保存と再利用で分析ノウハウを共有

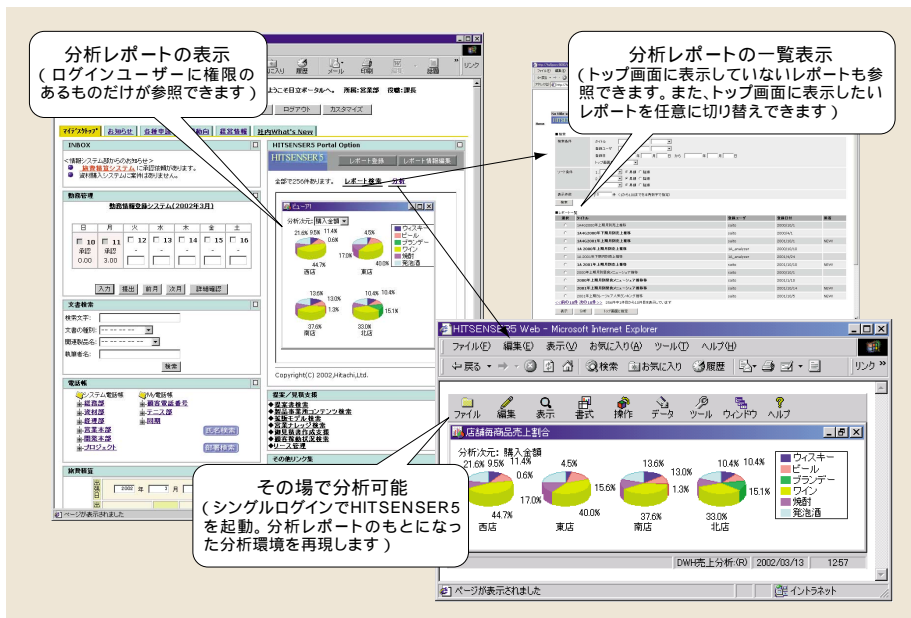


図5 HITSENER5 Portal Option for Cosminexus

い価格設定が自慢。

さらに単純なクライアント数でのライセンスフィーではなく、Webサーバに同時にアクセスするユーザー数をベースとした価格体系を用意しているため、コストパフォーマンスの高い活用環境を実現します。

また、大規模Web環境ユーザー向けにCPUの数をベースとした価格体系も用意しています。

HITSENER5の新機能

HITSENER5では、新たに次のような新

機能を提供し、お客さまのより高度で柔軟な意思決定をサポートします。

HITSENER5 Portal Option for Cosminexus New

HITSENER5 で作成したレポートをWebサーバを通じて企業ポータルに情報発信できる機能を提供します。LDAPサーバと連携して細かな参照権限が設定できるため、例えば部課長などの意思決定者のみが、ポータル上でそのレポートを参照でき、さらなる分析が必要になった場合はシング

ルログインでHITSENER5 Webを起動することが可能。起動後はさまざまなOLAP機能を利用しながら、より詳細な意思決定を行うことができます。

なお本製品は、企業ポータルを容易に実現するCosminexus Portal Frameworkと連携して動作するオプションです(図5)

HITSENER5 Local Data Option New

HITSENER5ではCosmiccubeと各種RDBをサポートしていますが、データの事前集約によってデータ量に影響されにくいレスポンスを実現できるCosmiccubeに比べ、RDB上のデータを分析するには、毎回RDBを検索する必要があり、その分データ量の増加によってレスポンスが低下する場合があります。

そこで新たに提供するのが、RDBから取得した分析対象データを分析時のデータ形式である「仮想キューブ」としてファイル化し、独立管理することで、RDBを検索せずに高レスポンスの分析を可能とするHITSENER5 Local Data Optionです。同機能で作成されたデータはネットワークに依存しないスタンドアロン環境でも活用できるため、エグゼクティブの意思決定用に配布する分析データや、モバイル環境での分析、管理業務などに幅広くお使いいただけます(図6)

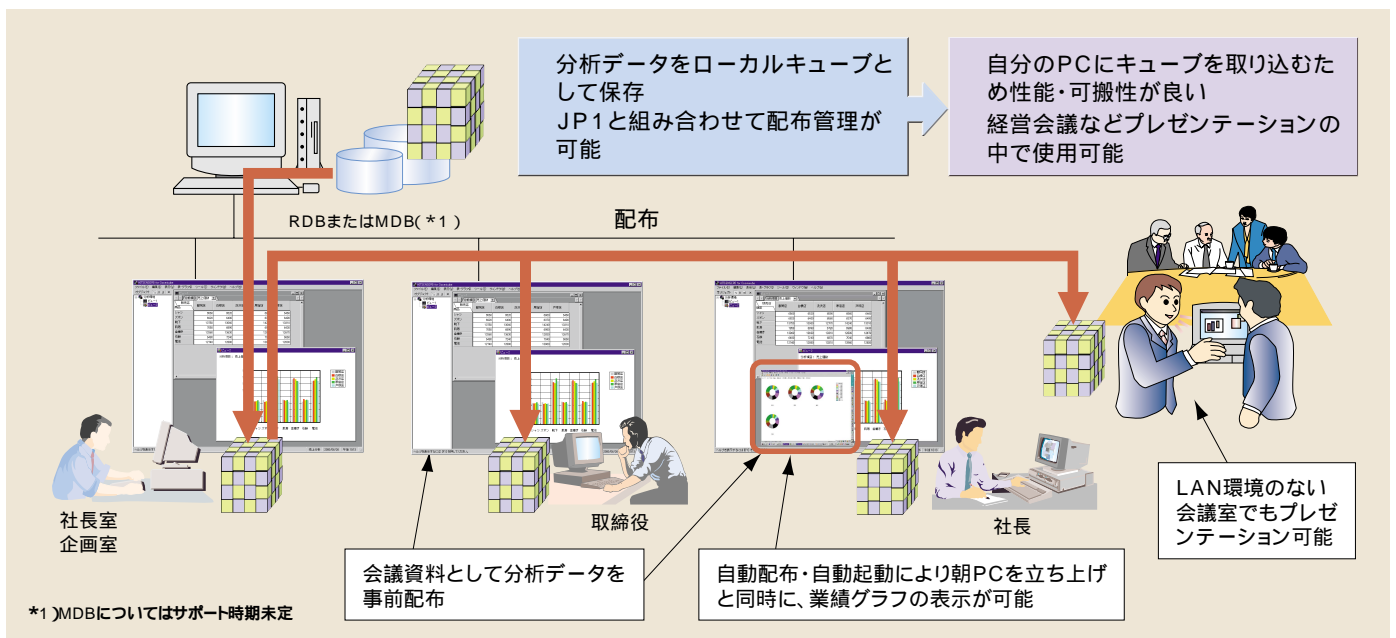


図6 HITSENER5 Local Data Option

HITSENER5導入イメージ

ある架空のお客さまを想定し、HITSENER5を導入したときの効果についてご紹介します。

最新の受注情報をラインに活かせる生産情報分析システムのご提案

例えばこんなお客さまの場合

製造業のAさんは、市場の拡大がなかなか望めない今、売上の維持・拡大をめざすため、各工場に蓄積されている製品別の受注情報を有効に活用したいと考えていました。しかし現状では、次のような問題を抱えていたのです。

抽出したデータをExcelのマクロを利用して各種集計(合計/累計/構成比/平均/総合計/総平均)を行っているが、製品構成が複雑であり、かつ製品構成の変化も頻繁にあるため、報告書に必要な情報を抽出する度に製品構成を意識しなければならず、簡単に抽出できない。顧客ニーズに合わせて多種多様な製品開発を行っているため、マクロのメンテナンスが追いつかない。

以上のことから、各工場に蓄積される製品の受注情報を有効活用できない状況が続いており、今後毎月約300,000件増えるデータや20,000件ものアイテム数と処理時間

のバランスを考えると、既存のERPパッケージが蓄積したデータを直接参照して、Excelでカスタマイズする方法では手作業やマクロ修正量も多く、性能向上や個別ニーズの吸収は望めないことが予想されました。そこで、ERPパッケージと連携しつつも、データを自由に抽出/加工/検証できる新たな情報分析システムを構想していったのです。

HITSENER5ではこう提案します

メインフレームやERPで管理されているデータをデータウェアハウスとして統合することをご提案します。散在するデータを収集・変換・統合する処理はELTツールDataStage、統合データを管理するのはリレーショナルデータベースHiRDB、そしてそれを色々な視点から分析し、企業戦略へ活かしていくための分析ツールはHITSENER5、これらを使ってデータ活用システムを「フェーズ1」として提案します。

また、今後データ量が多くなり、アクセス性能が出なくなる場合のために、MDB Cosmicubeを活用し、優れたパフォーマンスを実現するシステム、さらには本部/企画部門で利用していた分析業務を、全国規模に拡大するためWeb環境での分析に拡張するシステム(HITSENER5 Webを利用)を「フェーズ2」として併せて提案します。

既存の業務が大幅に改善

既存のRDBにアドオンするだけで、蓄積した情報を現場にフィードバックできるHITSENER5の導入により、次のような効果をあげることができます。

HITSENER5の操作性により、利用者のスキルに関係なく、高効率なデータ抽出・加工が可能になります。これにより、企画部門でのデータ検証時間が大幅にスピードアップ。現場での報告書作成効率が著しく向上し、経営者/マネージャークラスだけでなく、担当者の提案/意思決定の支援にも大きく貢献できます。スタンドアロンで展開していた既存のDBや、ERPパッケージが管理していたデータを、オープンな形で有効活用できるようになります。これにより、市販のさまざまなツールが利用でき、業務の効率アップも図れます。

Cosmicubeの並列ローディング、並列集約、並列検索機能を利用することで、データ量が増加しても分析レスポンスや可用性の低下を防ぐことができます。これにより、過去の大量のデータを色々な角度から検証し、問題を見つけ、解決していくプロセスをスムーズに行うことができます。HITSENER5 Webの導入により、データ分析・活用の業務を低コストで全社規模に拡大することができます。

分析システム開発者に対するデータ分析部品も提供

Hitachi OLAP Components(ActiveX[®] **コンポーネント**)を利用すると、HITSENER5の機能をAPPGALLERYまたはVisual Basic[®]で開発する業務アプリケーションに組み込むことが可能です。

また、業務に合わせてすぐに使える各種テンプレートも用意していますので、ぜひ活用ください。

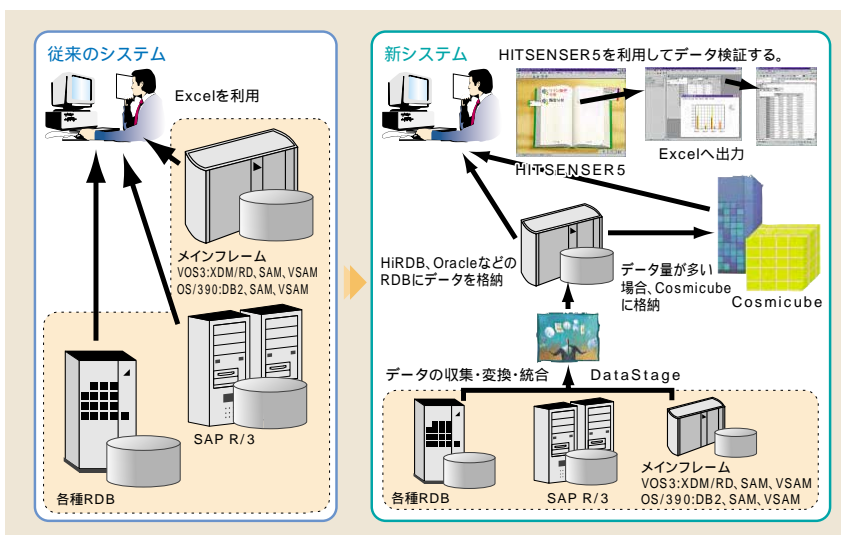


図7 HITSENER5の導入例

お問い合わせ先

日立オープンミドルウェア問い合わせセンター

☎ 0120-55-0504 利用時間 9:00~12:00, 13:00~17:00(土・日・祝日を除く)

E-mail: i-biz@itg.hitachi.co.jp

情報提供サービス

<http://www.hitachi.co.jp/soft/hitsenser5/>